

生涯現役！

令和8年度内閣府エイジレス・ライフ実践事例、
社会参加活動事例に本市から4名・1団体の受章
が決定しました



ターゲット 10.2

2026年9月8日

郡山市保健福祉部

健康長寿課

課長 山木 郁子

TEL：924-2408

SDGs ターゲット 10.2 「全ての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する」

内閣府が高齢者の社会参加活動の内容を広く全国に紹介する個人及び団体に、本市からエイジレス・ライフ実践事例4名、社会参加活動事例1団体の受章が決定しました。(事例詳細については裏面のとおり)

1 受章者 エイジレス・ライフ実践事例

いとう	よしの	
伊東	由乃	様
はしもと	きすこ	
橋本	貴須子	様
よぎあし	ふくお	
過足	福男	様
みなかわ	あきら	
皆川	晃	様

社会参加活動事例

パソコン寺子屋安積野 様

2 伝達式 令和8年10月に書状及び記念の楯の伝達式を予定しております。

<エイジレス・ライフ実践事例及び社会参加活動事例>

内閣府では、エイジレス・ライフ（年齢にとらわれず自らの責任と能力において自由に生き生きとした生活を送る）を実践している高齢者の事例（「エイジレス・ライフ実践事例」）や、地域で社会参加活動を積極的に行っている高齢者のグループ等（「社会参加活動事例」）を毎年募集し、その中から紹介する事例を選考し広く紹介しています。令和8年度は、全国でエイジレス・ライフ実践事例（個人）43名、社会参加活動事例（グループ等）39団体が選考されました。

▼【参考】内閣府ホームページ

URL：https://www8.cao.go.jp/kourei/kou-kei/age_list_all.htm



受章者（団体）名	活動内容
【エイジレス・ライフ実践事例】 伊東 由乃 様 いとう よしの	JA 福島さくら郡山地区女性部支部長を 20 年以上務め、レクリエーションダンスや大正琴など様々な活動を行っている。郡山市老人クラブ連合会では女性部副部長を務め、市や地域の老人クラブの行事に積極的に参加している。特にゲートボール大会ではコーチを務め大会運営に貢献している。また、地域のフラダンスクラブでは会長としてメンバーをまとめ、定期的に練習を重ね、地域の様々なイベントに参加するほか、福祉施設などを訪問し、フラダンスを披露して観る人を楽しませ、心を癒している。
【エイジレス・ライフ実践事例】 橋本 貴須子 様 はしもと きすこ	准看護師や民生委員などで培った知識と持ち前の行動力で、平成 20 年に周囲の協力を得て、地域高齢者の健康管理や孤独予防などを目的とした地域に密着したサロン会(通いの場)を設立した。集会所で月 2 回、血圧測定、体調管理、体操、脳トレ、小物作り、食事会、お茶会などを開催し、地域住民の生活環境などの現状や課題の把握に努め、健康増進や見守り活動に取り組んでいる。また、平成 30 年からは老人クラブ「石筵夢想の会」会長を務め、ニュースポーツ(カーリンコン)大会を年 2 回開催し、地域の高齢者の交流の場を設け、健康づくりや親睦を図り、地域から厚く信頼されている。
【エイジレス・ライフ実践事例】 過ぎ 福男 様 よぎあし ふくお	青果市場に勤務していた頃、居住地域に名所や旧跡がなく寂れていくのを感じ、地域活性化につながる取り組みを模索していた。昭和 60 年頃から郡山市中田町の自宅敷地約 2 ヘクタールでツツジやシャクナゲなどの庭木を育て始め、平成 27 年の定年退職を機に芝桜の植栽を本格的に始めた。令和 4 年頃からはチューリップも加え、「春うらら、ふらわーパーク」と名付けて、毎年 4 月中旬から 5 月中旬にかけて色鮮やかな花々を無料で公開している。展望台も設置し、多い日は 100 人ほどの見物客が訪れ、夫婦 2 人で手入れをしながら来訪者との交流を楽しんでいる。
【エイジレス・ライフ実践事例】 皆川 晃 様 みなかわ あきら	小学校教員を定年退職後、本宮自主夜間中学の生き生きと学ぶ姿に感銘を受け、同僚講師らとともに令和 5 年に郡山自主夜間中学を創設した。国語や理科、英会話など 44 講座を市内 9 公民館で月 2 回開講し、主に高齢者を対象に少人数で多様な学びを提供している。講師約 30 名は教職経験者や会社員など多様な背景を持ち、ボランティアで参加し、受講者は熱心に学び、講師も刺激を受ける相互学習の場となっている。被災体験を背景に、「学び」を通じた生きがいづくりを目指し、地域の教育力と包摂性向上に貢献している。
【社会参加活動事例】 パソコン寺子屋 安積野 様	地域の高齢者からの相談を受け、平成 24 年にパソコン初心者向けの勉強会を自宅で開始した。平成 28 年には市から公共的な団体として公共施設の施設使用料減免の決定を受け、公民館での実施へ移行した。高齢者が IT の仕組みをじっくり理解し利便性を楽しめることを目的とし、繰り返し学べる場を提供している。社会のデジタル化が進む中で、高齢者自身がデジタルデバイドを解消し、ICT を楽しむ取り組みであり、子世代に何度も質問しにくい課題を同世代同士の教え合いで解決している。ICT が得意な高齢者が苦手な人を支えることでコミュニケーションが生まれ、生きがいづくりと ICT 推進に貢献している。